



【教育目標】自らの可能性を信じ、努力することのできる生徒を育成する。
【一学校一改善】先手あいさつ

冬来たりなば春遠からじ

早いもので、来週からは2月となります。2月4日は立春、暦の上ではもう春となります。実際は、今が一年のうちでも寒い時期ではないでしょうか。

さて、今週の全校朝会でタイトルの句を紹介し、次のような話をしました。

皆さんは、「冬来たりなば春遠からじ」という句を聞いたことがありますか。この句は、イギリスの叙情詩人シェリーの句で、「厳しい冬がやって来たならば、次には暖かい春がついそこまで来ている。どんなに現在が不遇であっても、その先には明るい希望の日々が待っている」という内容のたとえとしてよく使われるものです。この寒さも、次第に暖かくなって、いつの間にか春になっていきます。この暖かくなり方が、三寒四温ということばに示されるように、暖かい日がしばらく続いたと思ったら、急に寒い日が続いたり、暖かくなったり寒くなったりを繰り返しながら、だんだんと春に近づいていきます。いつかは春が来るように、今思った結果が出なくて苦しい思いをしている人も、努力を続けていけば、良くなったり悪くなったりを繰り返しながらかもしれないけれど、気がついてみれば良い結果に結びついていたということがあるものです。

関連して、もう一つ話をします。皆さんが一人一鉢で苗を植えたとき、花は咲いていましたか。お店で売っている苗は、どのような花が咲くか分かるように何輪か花が咲いていることと思います。しかし、苗を植えるときには、花を摘んで植えることが多いです。せっかく咲いている花をなぜ摘んでしまうのでしょうか。それは、花を咲かせた状態では、花を咲かせることに栄養がいき、根をしっかりと張ることができず、大きな株にならないからです。大きな株にするために、しばらく花をつけることをさせず、根を張ることを優先させます。花が咲くことが結果が出ることだとすれば、根だけを張っている時期は結果が出ない苦しいつらい時期となります。しかし、その時期があるからこそ、大きな株となり、たくさんのお花を咲かせることができるのです。すなわち、しっかりとした良い結果を得ることができるのです。明るい未来はきっと来ます。頑張ってください。

この文章を読まれて、機会がありましたら、どのような感想をもたれたか、話題にしてくださいとありがたいです。

一層の感染対策の徹底を

新型コロナウイルスが猛威を振るっています。学校やPTAの行事等もやむを得ず延期や中止が相次いでいます。感染を防ぎながら、できる限り学校の教育活動を充実させていきますので、これまでお願いしてまいりました感染症対策へのご協力をこれからもよろしくお願いいたします。